

セミナー 紹介

県民のための がんセミナー



がんセンター局長

中込 博

当院では、県民の皆様を対象に「県民のための“がん”セミナー」を開催し、さまざまな臓器のがんの発症頻度、症状、診断、治療などの基本的な内容や当院が行っているがん医療を紹介してきました。

平成26年までに計30回開催し、参加人数2,040名、がん相談者数77名を数えています。今年度は、当院で進んでいるHotな内容を中心に、県民の皆様さらに情報発信していきたいと考えています。平成27年5月23日に開催した第31回セミナーでは、4月から当院で開始した“痛みのスクリーニング”を中心に、がん患者さんの心と体の痛みを支えるがんセンター局の取り組みを紹介しました。また、初めての試みとして、ぴあサポーターや患者会の皆様の協力を得て、がんの療養生活を前向きに送るための話し合い（グループワーク）を行いました。がんの体験者やその家族が思いを話し合い、参加された方々の表情が明るくなっていた姿をみることができました。

また、セミナーの開催に合わせ、9階通院加療がんセンター内にがん患者さんの作成した絵手紙や絵画、川柳などを展示する“あったかルーム展示コーナー”を設置し、2週間の期間展示を行いました。がんの療養生活を送っている患者さんの気持ちに、我々医療者も共感することができ、よい勉強になりました。

今年度のセミナーは、今後、第33回～第35回の計3回の開催を予定しております。多くの皆様の参加をいただければ幸いです。



平成 27 年度「県民のためのがんセミナー」開催のご案内

第33回	9月12日(土)	当院におけるがん薬物療法の進歩	化学療法科 部長 飯野 昌樹
第34回	11月23日(月・祝)	緩和ケア	未 定
第35回	1月16日(土)	前立腺がん ロボット手術	泌尿器科 副部長 山岸 貴裕



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

地域連携センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1
TEL.055-253-7111/FAX. (直通) 055-253-2903

安全で良質な医療を継ぎ目なく享受するために



The flowchart illustrates the medical care process for stroke patients. It begins with a red starburst labeled '受傷' (Injury). An arrow labeled '入院' (Admission) leads to an orange box labeled '急性期病院' (Acute Care Hospital). From there, a double-headed green arrow labeled '情報の交換 転院先の決定' (Exchange of information, Decision on transfer destination) connects to a yellow box labeled '回復期病院' (Recovery Period Hospital). An arrow labeled '転院' (Transfer) leads from the acute care hospital to the recovery hospital. Finally, an arrow labeled '退院' (Discharge) leads to a blue box labeled '維持期施設' (Maintenance Period Facility). Below these boxes, a timeline indicates the duration of care: '手術' (Surgery) in the acute care phase, '継続したリハビリ' (Continued rehabilitation) in the recovery phase, and '自宅・施設など' (Home, facility, etc.) in the maintenance phase.

```

graph LR
    A[受傷] -- 入院 --> B[急性期病院]
    B <--> |"情報の交換  
転院先の決定"| C[回復期病院]
    B -- 転院 --> C
    C -- 退院 --> D[維持期施設]
    
```

手術 継続したリハビリ 自宅・施設など

山梨県においても整形外科の地域医療連携を円滑に進め、地域医療レベルを向上させ、地域住民が安心して安全で良質な医療を継ぎ目なく享受できることを目的として平成23年5月に山梨県大腿骨頸部骨折連携パス研究会が発足し、山梨県大腿骨頸部骨折地域連携パス(図2)の運用が開始されました。

(図2)山梨県大腿骨頸部骨折地域連携パス(医療者用)

大腸骨幹部骨折地域連携パス(2015年改訂案)									
D		D		D		氏名	診断名	分類	患者ID
受入日		受入場所		退院日		性別	手術日	術式	
受入れ歩行能力	屋内	屋外	補助道具	急性期初達目標	屋内	屋外	受入れ前所在	退院後所定	
移動力レベル	車椅子座位	平行棒内歩行	歩行器歩行	杖歩行	階段昇降	屋外歩行	最終歩行獲得レベル(記憶格)		
訓練開始日							屋内	屋外	
送迎機関	急性期病院A		転院	回復期病院B		施設			
経過	急性期入院日:	転院日		回復期入院日:	退院日	維持期初診日	維持期入室日	維持期退室日	
排泄	尿通カテーテル	病棟内トイレ		病棟内トイレ		トイレ動作	有	無	
清潔	留置	除去				入浴	有	無	
	清拭	シャワー・入浴		入浴		初期	入浴	セルケア	有
セルフケア	急性期転院時状況			回復期退院時状況			<付き添いセルフケア注意点>		
①～⑤より選択	食事動作	更衣		食事動作	更衣				
①自立、②見守り	移乗動作	下着・靴の履脱		移乗動作	下着・靴の履脱				
③セーティング、④肘介助	ベッド⇄車椅子	洗面所		ベッド⇄車椅子	洗面所				
⑤全介助、⑥未実施	車椅子⇄トイレ	床から起立		車椅子⇄トイレ	床から起立				
主治科	別紙紹介状参照			別紙紹介状参照			内容内容変化		
検査	X線、採血			X線、採血					
処置	褥瘡・介護支援	ドレーン管理	有	褥瘡	有	処置内容			
	有	ドレーン抜去日		部位					
食事・栄養	治療食、①ソフト食、②ミキサー食、③経管栄養から選択			食事内容変化					
教育	入院時OR N・OS の指導	介護保険認定 身体障害者手帳		介護保険認定 身体障害者手帳		家庭訪問調査 家庭支援手帳	退院時訪問	介護保険確認 有	
看護計画	短期目標	望み移行		看護計画	望み移行		禁忌症状確認		
意思決定のための認知能力	ROM	固執		意思決定のための認知能力	ROM	固執	有		
	説明書	外航			説明書	外航	有		
意思の伝達能力	MMT	四肢筋		意思の伝達能力	MMT	四肢筋	有		
	中盤筋				中盤筋		日常生活評価値		
麻痺	リハビリ意欲	日常生活評価値		麻痺	リハビリ意欲	日常生活評価値			
記載日	急性期コメント			記載日	回復期コメント				
担当医				担当医					
看護士				看護士					
看護師				看護師					

Topics

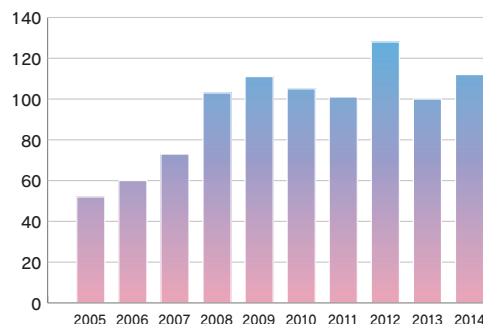
大腿骨頸部骨折 地域連携パス

CHECK
1

Successful Performance of surgery

実績

当院における大腿骨頸部骨折手術症例は2008年より毎年100例を超えており(図3)、平成26年度の大腿骨頸部骨折手術症例は112例、地域連携パス適応症例は95例(84.8%)でした。回復期登録医療機関には8施設に転院していますが、残念なことに維持期医療機関まで移行できた症例はこれまで1例もありませんでした。



(図3) 大腿骨頸部骨折手術の推移

CHECK
2

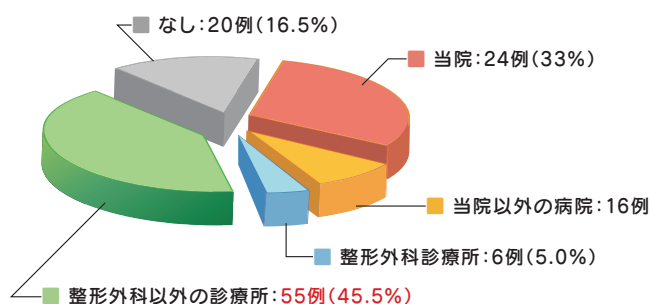
Future tasks

今後の課題

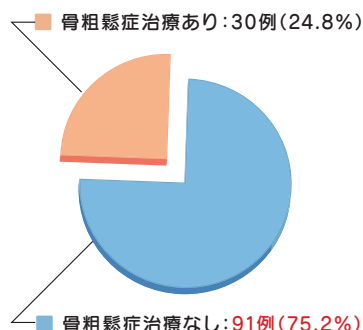
当院の平成24年度の調査では、大腿骨頸部骨折受傷時のかかりつけ医療機関は整形外科以外の診療科が大多数を占めていました(図4)。一方、連携パスの維持期施設に登録している医療機関は現在のところ整形外科が大多数を占め、整形外科以外の診療科が登録できていないのが現状で、連携パスが維持期に移行できていない大きな原因と考えられます。

大腿骨頸部骨折は高齢者の骨粗鬆症が主要な原因ですが、平成24年度の調査では、骨折前に骨粗鬆症治療をしていた症例はわずか25%程度しかありませんでした(図5)。骨粗鬆症による再骨折を予防するためには継続的な骨粗鬆症治療が必要となりますが、地域完結型医療を実現するには維持期医療機関(かかりつけ医)で骨粗鬆症治療を行うことが理想です。

平成24年度大腿骨頸部骨折手術 121症例



(図4) 受傷時かかりつけ医



(図5) 骨粗鬆症治療歴

これらを踏まえ、今後当院整形外科として、①「整形外科以外の診療科を連携パス維持期施設に登録する」、②「骨折予防のための骨粗鬆症治療をかかりつけ医で行う」ことを目標に地域連携センターと努力していきたいと思いますのでご協力よろしくお願いいたします。

2015
地域連携
研修会
H27年度

第1回 4.23

「肺癌外科治療の最前線
気胸ホットライン（24時間）開設のご案内」

平成27年4月23日（木）、当院多目的ホールにおいて、今年度第1回目の地域連携研修会を開催しました。

当院呼吸器外科部長後藤太一郎医師が、講演いたしました。院外より22名の医師、看護師、相談員等が、院内からは20名の職員が出席いたしました。

最新の肺癌外科治療について画像を用いての紹介で参加した方々からはとてもわかりやすかったと好評でした。

第2回 5.29

「関節リウマチの薬物治療
～DMARDsからバイオ製剤まで～」

平成27年5月29日（金）、当院看護大研修室において、今年度第2回目の地域連携研修会が開催されました。

当院リウマチ・膠原病科神崎医師の座長で帝京平成大学健康メディカル学部教授・JCHO湯河原病院リウマチ科 仲村一郎先生より講演をいただきました。院外より27名の医師、看護師など多くの方々にご参加いただき、院内からは14名の職員が出席いたしました。

抗リウマチ薬の選択には、薬剤の効果の強さ、投与方法、効果発現までの期間、副作用の危険性などの薬剤自身の特性とともに、リウマチの重症度と予後、疾患活動性、発症からの期間、合併症、コンプライアンス、治療歴などの患者の特性を考慮に入れる必要があるという講演内容で、ご参加いただいた多くの方々から非常に良かったとご好評をいただきました。



研修会の情報はホームページでもご案内しています。併せてご覧ください。
<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>

第3回 7.23

「病院総合診療科の立ち位置
～紹介患者事例を通して～」

平成27年7月23日（木）多目的ホールにおいて、今年度第3回目の地域連携研修会を開催しました。

当院総合診療科・感染症科副部長三河貴裕医師が講演いたしました。実際に開業医の先生方にご紹介いただき、診療させていただいた患者事例をもとに総合診療科の立ち位置についてご紹介させていただきました。院外から17名の医師、看護師、相談員等が、院内からは34名の職員が出席いたしました。

第4回 8.20

「血液がんはどこまで治せるのか？
～血液がんにおける地域連携一貧血や
発熱性好中球減少症時の対応について～」

平成27年8月20日（木）多目的ホールにおいて、今年度第4回目の地域連携研修会を開催しました。内容については次回ご報告いたします。

当地域連携センターでは院内・院外に向けた連携のための研修会を今後も定期的に開催させていただきたいと考えております。その都度ご案内させていただきますので、ぜひご参加ください。

地域連携研修会が
開催されました

次回研修会

H27年度 第5回

日時：H27年 9月30日（水）／19：30～20：30

場所：山梨県立中央病院 2F 多目的ホール

甲府市富士見1-1-1 055-253-7111

題名：『婦人科の現状と
地域連携について（仮）』

講師：山梨県立中央病院
婦人科部長 池上 淳 医師

紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状（診療情報提供書）を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

電話予約の流れ

1

かかりつけの
医院を受診

紹介状をもらってください

2

専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00～17:00 月～金（祝祭日除く）

①紹介状②電話診療予約申込書
③当院の診察券（お持ちの方は）

お電話前に
準備して
ください

3

受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書
③保険証 ④当院の診察券
⑤受給者証（老人医療、公費等該当する方）